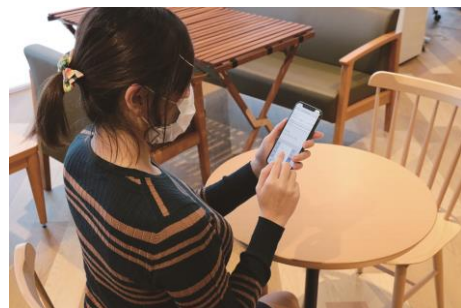


1 徹底した行政改革 さらに市民第一の市政へ

公約事業名称	取り組み
● スマホから「いつでも・どこでも」可能な行政手続きを実現	➡ スマホからの行政手続きを充実させて利便性を高めます。スマホを利用しない方が不便にならないような配慮も行います。
● 欲しい市役所の情報が自動で届き、道路破損などの気づきを気軽に通報できる双方向のシステムを導入	➡ それぞれの市民の子育てや介護などの状況、住んでいる地域に対応した情報をプッシュ型で届けるアプリを市民に提供します。また、道路破損などの気づきもアプリを活用して気軽に市役所へ通報できるようにします。
● 規制緩和を実現する内閣府スーパーシティ構想への申請とプライバシーを重視したデータ活用	➡ 大幅な規制緩和により新たな技術の社会実装を一部の地域で優先的に進めることができるスーパーシティへの選出を目指します。公民連携を進め、プライバシーを重視したデータ活用と規制改革により、便利で快適な人中心の未来都市を構築します。
● つくばセンタービルに便利な市役所窓口を開設	➡ 市の中心部に位置するセンタービルへ市役所窓口を新設することにより、利便性を高めるとともに中心市街地への新たな人の流れを生み出します。
● 日本語学習環境の充実などによる海外出身者も住み続けたいくなるまちづくり	➡ 大人向け日本語講座の開催や子ども向け日本語学習支援などの環境を充実させるとともに、国際交流拠点の整備を進めることにより、海外出身者が一層住み続けたいくなるまちづくりを行っていきます。

2 安心の子育て こどもとママパパにもっとやさしい子育て環境

公約事業名称	取り組み
● 産婦人科開設の助成金により、市内で出産しやすい環境を整備	➡ 産婦人科の開設などを支援するための助成金を活用しながら、市民が市内で安心して出産できる環境の整備を進めていきます。
● マル福を高校生の外来診療まで拡大して家庭の負担を軽減	➡ 子育ての経済負担を少しでも減らすため、保険診療の医療費について自己負担分の一部を助成する医療福祉費支給制度（マル福）を高校生の外来診療まで拡大します。
● 公立保育所での昼食用白米持参・おむつ持ち帰りの慣行を見直し	➡ 保護者の負担を減らすため、公立保育所における昼食用の白米の持参や、おむつの持ち帰りを見直します。
● 公立幼稚園での満3歳からの受け入れを対応可能な園から試行的に開始	➡ 公立幼稚園での受け入れは満4歳児からとなっていることから、民間幼稚園のように満3歳からの受け入れについて、一部の園から試行的に開始していきます。
● 放課後児童クラブの待機児童をゼロへ	➡ 放課後児童クラブのニーズが急速に高まり、待機児童が発生していることから、2024年度までに放課後児童クラブの待機児童をゼロにすることを目指します。
● 公民連携で推進するフリースクールにより不登校の児童生徒が安心して通える居場所を確保	➡ 2020年10月1日から開設した不登校の児童生徒も安心して通えるフリースクールにおいて、個性に応じたさまざまな学習機会を提供するとともに、新たな支援方法を構築します。



スマホを利用した行政手続き



公立保育所での昼食



みんなの食堂

3 頼れる福祉 すべての人が自分らしく生きる社会

公約事業名称	取り組み
● 身近な地域で運動や趣味の活動ができる「高齢者憩いの広場」の整備を市内全域で推進	➡ 2018年度から整備を開始し、現在9カ所の拠点で活動が行われている「高齢者憩いの広場」について、引き続き身近な地域で運動や趣味の活動ができるよう整備を進めていきます。
● 子どもと保護者への支援が切れ目なく受けられる児童発達支援センターの開設	➡ 子どもの発達に関する支援を切れ目なく受けることができるようにするため、消防本部跡地に児童発達支援センターを新設します。
● 市内のバリアフリー化促進に関するマスタープラン策定と公共施設などの対応の推進	➡ バリアフリー法に基づく移動等円滑化促進方針を策定することで、市内のバリアフリー化の方針を明確化するとともに、公共施設などでのバリアフリー対応を進めていきます。
● 子どもたちが安心して過ごせる学習拠点やみんなの食堂の整備の推進	➡ 家庭の経済状況などの環境によらず、子どもたちが安心して過ごし、学習できる場所を提供するため、学習拠点やみんなの食堂の整備を進めています。今後も、いただいたつくばこどもの青い羽根基金への寄付を活用し、拠点の充実に向けて取り組んでいきます。

4 便利なインフラ 快適で持続可能なインフラ整備

公約事業名称	取り組み
● 公共交通をさらに便利にするための市民との対話と改善の継続、近隣自治体との連携推進	➡ 公共交通の改編により、つくばスの停留所は223カ所に倍増し、荳崎地区では路線バスの牛久駅への乗り入れを実現、筑波地区では支線型バスの運行が開始しています。これらにより2019年度の公共交通利用者数は、前年度比で約1万人増加しており、市民意識調査では満足度が3.1%改善しています。今後も、公共交通の持続可能性を確保しつつ、市民満足度を高めていくため、きめ細やかな対話による改善や、近隣自治体との連携を推進していきます。
● 災害に備えて物資を保管する防災倉庫の整備	➡ 平時から食料や飲料水、防災資機材などを備蓄でき、災害時には支援物資の受け入れが可能な防災倉庫の整備を行い、災害に対して強いまちづくりを進めます。
● 余った食品の利活用や落ち葉などの堆肥化を推進	➡ 給食などで余った食品、落ち葉や剪定した枝等の、土壌改良材や堆肥としての活用について調査していきます。



つくバス



Farm to Table つくば



じゃぶじゃぶ池

5 活気ある地域 つながりを力に活気ある地域へ

公約事業名称	取り組み
● 周辺市街地8地区で取り組んできた地域振興のさらなる発展と他の周辺地域や団地への横展開	→ これまで北条、小田、大曽根、吉沼、上郷、栄、谷田部、高見原の周辺市街地8地区で地域活性化の取り組みを進めてきました。これらを基礎に8地区での取り組みをさらに発展させるとともに、他の周辺地域や住民が減少している団地への横展開を行い、市内のさまざまな地域で活性化を進めていきます。
● コロナの影響を受けている地元企業の相談体制を充実させ一元的にサポート	→ 新型コロナウイルス感染症の影響を受けている事業者向けに新たに設置した相談窓口について、今後も、市の制度に限らず国・県の制度も含めて横断的に相談できる環境を提供、強化していきます。
● 地元飲食店でのつくば産農産物の使用促進	→ つくば産農産物を扱う地元飲食店を応援するための地産地消レストラン制度を推進し、地元でのつくば産農産物の消費拡大を促進していきます。

地域の課題解決と魅力をさらに引き出す取り組み

筑波 ● 筑波東中学校跡地をジオパークやサイクリングの拠点として整備 ● 筑波西中学校跡地に誘致したS高等学校との連携による地域活性化の推進	谷田部 ● 谷田部庁舎跡地への交番誘致や暫定的なイベント広場としての整備を推進 ● 圏央道・つくば中央インターチェンジ周辺の土地利用を促進
大穂 ● 小貝川や地域の商店などの地域資源を生かした誘客を推進 ● 道路の整備や拡幅の推進による、大穂地区の東西移動の円滑化	荃崎 ● 荃崎庁舎跡地を活用した地域活性化の推進 ● 六斗の森や牛久沼のアウトドア拠点としての魅力向上を推進
豊里 ● 上郷高校跡地の利活用方針を決定 ● 豊里ゆかりの森や川口公園、小貝川などのさらなる魅力向上を推進	つくばエクスプレス沿線 (研究学園、万博記念公園、みどりの) ● 地域住民が施設利用できるとともに、交流も可能な新設校の設計や学校用温水プールの整備 ● 交番や郵便局の誘致活動を推進
桜 ● 桜庁舎跡地を活用した地域活性化の推進 ● 都市計画道路妻木金田線の整備に向けた取り組みの加速	

6 誇れるまち つくばの魅力をともに創る

公約事業名称	取り組み
● 老朽化が課題となっているセンタービル・センター広場のリニューアル	→ つくば駅からの動線の確保や老朽化に対応するため、センタービルを市民活動や交流するための拠点としてリニューアルします。センター広場は、駅前広場と連続したにぎわいや交流を生み出せるよう環境を整えていきます。
● 廃校を活用した文化芸術の新たな活動拠点の整備	→ つくばの文化芸術をさらに盛り上げるため、廃校を活用し、作品制作や発表の場、地域のコミュニティスペースとなる新たな活動拠点を整備していきます。
● 公式記録の取れる陸上競技場の整備	→ 公式記録が取れる陸上競技場の整備に向けて、構想の策定や大規模事業評価、設計などを推進していきます。
● 公園に滞在したくなるようなプレイスメイキングや店舗出店の促進	→ 公園でのバーベキューやカヌーなどのアウトドア体験、じゃぶじゃぶ池の開放、多くの店が出店するイベントなど、子どもから高齢者まで、あらゆる世代が楽しめる特色や魅力のある公園空間を創出します。

市長公約事業のロードマップ 2020-2024 概要

世界のあしたが見えるまち

ともに創る

- 1 徹底した行政改革
- 2 安心の子育て
- 3 頼れる福祉
- 4 便利なインフラ
- 5 活気ある地域
- 6 誇れるまち

令和2年12月
つくば市

